

第9次氷見市総合計画

基 本 構 想

令和8年6月

1 まちづくりの考え方（基本理念）

本市のまちづくりを展望するとき、D X推進の加速化等による様々な分野でのイノベーションの創出や、働き方・ライフスタイルなどの価値観の多様化など、社会環境等が目まぐるしく変化する中、令和6年能登半島地震からの復旧・復興や人口減少・少子高齢化の進行、後継者不足による地場産業の衰退など解決すべき課題は多く、人口減少のカーブを緩やかにするとともに、人口が減少しても市民が幸せに暮らせる氷見をつくるにあたり、重要な時期を迎えています。

先人から受け継がれてきた歴史・文化を継承しながら、こどもまんなか社会や共生社会を実現し、明るく希望が持てる「未来づくり」を実現します。また、震災を教訓として災害に強く安全・安心で、活力と賑わいのある持続可能な「地域づくり」、「ひみ寒ぶり」や魅力的な里山・里海等に代表される氷見の食・自然・景観等を生かし、若者や女性をはじめ誰もが活躍できる「産業づくり」を実現します。

加えて、甚大な被害をもたらした能登半島地震からの復旧・復興を、単なる原状回復ではなく、新たな価値を生み出す「創造的復興」として「オール氷見」で成し遂げるほか、S D G sの考え方に基づく誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現や、未来技術等の利活用による諸課題の克服、多様な人材の活躍や活発な交流によるまちづくりを推進します。

持続可能な氷見の未来に向け、人と人とのつながりを大切にしながら、誰もが氷見の自然・食・文化に誇りと愛着を持ち、震災以前にもまして「活力と賑わいのある『ひみ』」を創造します。

2 目指す都市像

「人 自然 食 文化で未来を拓く交流都市 ひみ」

3 施策体系

「目指す都市像」を実現するため、施策の体系を4つの基本目標で示し、それを達成するために必要な施策項目で整理し、その総合的かつ効率的な展開に努めます。

施策体系図

